

(委託仕様書の別紙)

人材育成講座のカリキュラム (令和7年4月8日現在)

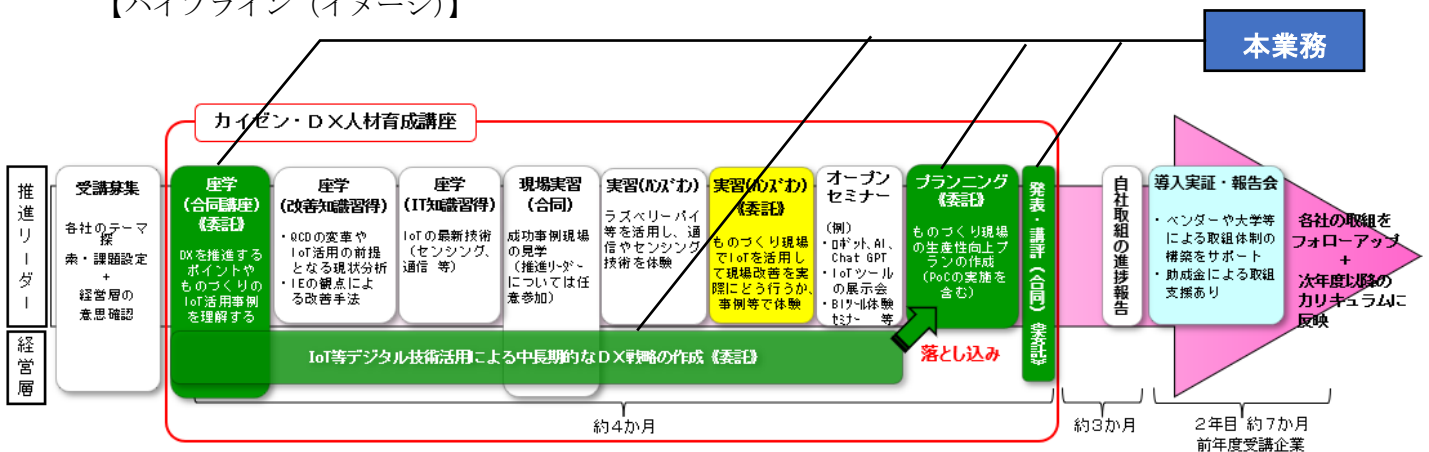
1 人材育成講座のパイプライン

次のすべての条件を満たすものづくり中小企業の、現場と経営層への情報伝達ができ、将来的なDX推進のコアとなる人材の育成「推進リーダーの育成」(次図の赤枠内上段)と、「経営層がコミットする中長期のDX活用戦略の作成」(次図の赤枠内下段)を並行して行い、その後、作成したDX活用戦略と自社のものづくり現場の具体的な課題に対応した生産性向上プランを作成(次図の赤枠内上段のプランニング)する。

【条件】

- ・経営層自らが取組に積極的に関与・判断できる
- ・工場の生産ライン管理、設備の故障予測、作業効率化など、企業規模にあった課題設定ができ、IoT等のデジタル技術の導入に適切な推進体制の構築ができる
- ・モデル企業として、開示可能な範囲で、プロセス及び成果の地域展開へ協力できる

【パイプライン (イメージ)】



2 人材育成講座のカリキュラム

- 受講定員：概ね、推進リーダー10人・社 及び 経営層 10人・社
- 講座期間：8月下旬～12月中旬 (約4か月間)、概ね1回/週開催
- 講座概要：

時期	分類	時間	概要・目的 【対象者】
8月	本業務 座学 (合同講座)	5時間程度	IoTの概論や今後のビジネス活用についての基礎知識を学ぶ。(※1)【推進リーダー・経営層】
	座学 (改善知識習得)	4時間程度 ×3回	製造現場プロセスの分析方法の基礎を理解し、人の作業性や、工程内の効率性についてIEの観点で改善の手法を理解する。(演習あり)【推進リーダー】
9月	座学 (IT知識習得)	4時間程度	センサーや通信、データの可視化など、IoTに必要な技術を中心に学ぶ。【推進リーダー】
	現場実習	4時間程度	成功事例現場 (IoT活用による改善実践により、生産性向上などの高い成果を上げた工場) の見学及び見学後の質疑応答【推進リーダー (任意参加)・経営層】

(講座概要の続き)

時期	分類		時間	概要・目的
9月	体験学習	IoT 活用 ハンズオン	4 時間程度	センサー、ゲートウェイからクラウドにデータをアップする体験を通じて、IoT を支える汎用的な技術を学習する。【推進リーダー】
		IoT 活用による 改善実践	6 時間程度	IoT システムを活用した現場改善の流れを実際にどう行うかを、模型やケーススタディを通じて理解する。【推進リーダー】
9月 ～ 10月	本業務 中長期の IoT 等活用 戦略の作成	講座 4 時間程度 受講企業現地訪問 3 時間程度× 概ね 10 社	講座：経営戦略を考える上で IoT 等のデジタル技術をどう活用すればよいかについて実例から前提知識を学ぶ。【経営層】 受講企業現地訪問：講師陣が受講企業を個別訪問し、工場視察後に経営課題分析・個別アドバイザリー・経営戦略の推進リーダーへのフィードバックを実施【推進リーダー・経営層】	
10月 ～ 11月	オープンセミナー	3 時間程度 × 6 回程度	成果（生産性向上）を効率よくスピーディーに実現するためのソリューションセミナー等の実施。 ・ロボットの活用 ・AI 講義、 ・Chat GPT 活用 ・IoT ツールの展示会 ・BI ツール体験セミナー 等 【推進リーダー】（受講者以外のオープン参加可。）	
11月	本業務 生産性向上プランの 作成	自社課題分析	4 時間程度	ワークショップを通じて、自社業務における課題を優先度や影響度から洗い出し、整理する。【推進リーダー】
		課題解決実行計画	4 時間程度	PoC の実施を踏まえて、課題解決に向けて必要となるシステムや体制、スケジュール等、具体的な計画を立てる。【推進リーダー】
		メンタリング期間	2時間程度（※2） ×概ね 10 社	最終発表に向けての個別相談を実施。【推進リーダー】
12月	本業務 成果発表会	5 時間程度	各社の生産性向上プランの発表と知見の共有を経営層の前で行う。また、講師のフィードバックも受ける。【推進リーダー・経営層】	

※1 講義の中で、本財団が選定した講師（学識経験者）1名が講演（1時間半程度）を行うものとし、当該講師招へいに係る業務及び経費については、本財団が負担する。

※2 1時間程度／回の個別面談形式で、2回実施する。